

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070101041		
法人名	医療法人 群栄会		
事業所名	グループホーム みずきの家		
所在地	前橋市池端町384番地1		
自己評価作成日	平成25年5月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/10/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/10/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市富士見町小暮704-2		
訪問調査日	平成25年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

庭に咲く草花は四季を通して楽しめ、菜園での野菜作りや行事等、日常の暮らしの中で季節を感じてもらえるよう配慮しており、利用者様1人ひとりのできる力を活かせるような働きかけや関わりをととても大切にしています。又、できる限り利用者様の希望に添った外出支援や手作りおやつ等にも力を入れています。利用者様・ご家族様との信頼関係をさらに深め地域の方にもっと気軽に立ち寄っていただけるようなホーム作りを目指しています。

遠くの山並みが一望できる立地条件のもと、広い敷地内には多くの植木や畑があり、目や肌で四季の移り変わりが感じられる。各居室と共用空間への移動も自由に動き回れる館内は、圧迫感のない環境の中で体力低下の防止にもなっている。処遇対策会議では、利用者・家族が気持ちよく利用してもらえるよう統一したケアの提供に取り組んでいる。家庭的雰囲気重視するグループホームの独自性を法人も理解し、利用者と職員が同じ食事を一緒に楽しむ実践もはじめられた。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方との関わりやつながりを大切にしている	地域との関わりを念頭に置き、利用者ひとり一人を尊重し、笑顔でケアを提供していくという理念を掲げ日々取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域活動の役割として回覧板や古紙回収等に協力、又地域の行事、催事等には積極的に参加し、地域の方との交流を深めている	ホームとして自治会に加入し、地域活動に協力している。敬老会や新年会、学校の歓送迎会にも参加している。祭りには利用者も出向いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での会合やイベントに参加し、その都度ホームを知ってもらい理解を深めてもらえるような働きかけを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催しており有効な意見交換の場になっている	運営推進会議は2か月に1度開催し、ホームの状況を報告したり、行政関係者や地域代表者・家族等の参加者で議案に添って意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	前橋市との情報交換や相談等支援あり、運営推進会議には必ず出席して頂いている	行政からは広報等の情報をもらったり、相談に応じてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ全員が処遇対策委員会に属しており定期的に会議を持ち常に意識向上に努めている	処遇対策会議(2か月に1度開催)の中で身体拘束をしないケアを取り上げ、昨年度に引き続き『言葉による抑制をしないケア』に今年度も取り組んでいる。外部研修にも参加している。日中は玄関の鍵は開いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苦情・身体拘束・虐待等含めて処遇対策委員会でスタッフ全員で取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方が現在入居している。関係者と話し合い支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い納得と同意を得てから対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が気軽に意見や要望を出せるような環境作りに日頃より努めている。出された意見や要望等は掲示、職員会議で話し合う等サービスに反映させている	入居間もない利用者や家族には積極的に情報を提供し信頼関係づくりに努めている。長期の利用者や家族とは気持ちの共有を重視した声かけや傾聴に心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や毎日のミーティング等で日頃から意見や要望を出す機会を設けている	朝の申し送りや定期または随時に職員会議を持ち、話し合いや必要事項の検討を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に従い、業務区分や勤務区分表を適切に作成し、超過勤務の縮減等を管理している。効率的な業務計画の推進を行い職場環境条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ1人ひとりが目標を持ち、モチベーションを高めるよう、施設内外の研修を多く活用し教育体制強化を進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会主催の研修や会議等に参加し同業者と交流する機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談は本人よりも家族からの電話や来訪が多く結果本人の困り事よりも家族の主張を聞いているが利用開始後に本人が困っている事、不安な事を聞く機会を多く取り、早い時期に良い信頼関係が築けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時又は後日、家族に来居して頂きより細部に亘っての聞き取りや相談を受けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の状況に応じて可能な限り柔軟な対応ができるよう努めている。母体病院や老健施設、居宅支援事業所等との連絡体制あり必要に応じた対応ができるよう相談やアドバイスしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支えあって生活していくという考え方の中で常に教えたり教えられたり、励ましたり励まされたりしながらの生活を大切にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や変化等、日常の様子を家族に知ってもらう為、きめ細かく伝えるようにしている。家族と一緒に過ごす時間を大切にしており、必要に応じての提案や協力をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や遠方の家族が訪ねてきたり、墓参りや外泊(子供の家)に出かけたりと交流が継続できるよう支援している	知人・友人も高齢化し、関係の継続も厳しくなっている利用者もいるが、家族との関わりを大切にしていけるように努めている。面会や外出・外泊、墓参りなどの継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で自然に協力しあったり、助けあったり、できるよう利用者同士の関係には十分配慮し、支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談にのったり、情報提供等行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の自己表現が困難な方が多い為、家族からの情報や日々の関わりの中から得た情報を共有しながら思いや意向を把握していくよう努めている	日々の利用者の表情や場面場面での言葉から思いや意向を受け止めるようにしている。特に食事や外食等の個別の要求に対する支援の実践を今後は検討していきたいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報提供となにげない会話の中からも情報を引き出せるよう努め、家族には来居時に、折にふれ話を聞くようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し援助していく中で、心身の状態等個別の情報も共有しながら現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を中心に月1回のモニタリングを行い、担当者会議にて医師や看護師の意見・アドバイス等をもたらしている。本人、家族にも折りにふれ思いを聞きとりながら対応している	介護計画は担当者を中心に月に1度のモニタリングを行い、計画の見直しは認定期間の更新時と状況が変化した時に行っている。	利用者の思いや意向を受け止め個別支援をした結果による変化も踏まえ、介護計画の見直しも、もう少し短期間(3ヶ月)で行ってみてはどうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	水分量・食事量や排泄等は毎日個別にチェックし、記録、申し送りの徹底で情報を共有し見直しに活かせるよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じてできる限り柔軟に対応している。医療連携体制を活かして、状態に応じての往診や点滴処置、他病院への通院介助等		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉事務所職員・成年後見人・包括支援センター等と協力しながらの支援、消防署協力の火災訓練や運営推進会議には地域の民生委員さんの出席がある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の了承のもと協力医の往診を受けているが専門医の受診等、希望に応じて適切に支援している	協力医である法人の医師が月に2回往診をしている。その他の専門医への受診は家族と協力しながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に健康面の相談しており、気づきや情報も細かく伝えるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携体制ができており、ホームでの対応が可能であればなるべく早く退院し入院によるダメージをすこしでも軽くできるよう支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療的処置が必要になったら病院へと家族には説明しており、職員間でも共有している	家族には利用開始時に、重度化や終末期において医療的処置が必要になった場合には病院へと説明している。職員も方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し法人との連絡体制は確立されているが全員が実践力を身につけているとは言えない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの避難、誘導、通報訓練、を行い自主訓練も含めて年3～4回実施している。災害時における併設病院との協力体制はできており、備蓄の用意もある	直近1年間で3回(昼2回夜1回)の避難誘導訓練を実施している。1回は消防署が立ち会っている。備蓄は隣接の病院の栄養科で米・水・各種缶詰を3日分確保している。	災害時の避難誘導がスムーズに実施できるよう、更に自主訓練の回数を増やしていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	処遇委員会での話し合いやミーティング等 でおりにふれ話し合っており、スタッフの意 識向上に努め、声かけや誘導の仕方に気を つけている	処遇委員会で個人を尊重した声かけや誘導 の方法について話し合っている。	個々の利用者の違いを再認識し、食 事を食べ始めるタイミングや居室に職 員が入る際のノックや声掛けの必要 性についてなど具体的内容について 検討してみたいかがか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	些細な事でも本人が納得して行動できるよ うに、その方に応じた声かけを行い本人が 決める場面を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	施設としての流れはあるが、その日の状態 や気持ちを汲み取り、出来る限り個別性 のある支援を心がけて対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	爪・口の周りの汚れ・目やに・男性は髭剃り にも気をつけている。衣類にこだわりのある 方の更衣介助の際には特に注意をはらい 本人の好きな洋服が着られるよう支援して いる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	テーブル拭きや皿拭き等できる事は喜んで 行ってくれる。職員も利用者と一緒に食事を 頂きながらさりげないサポートを行い食事を 楽しめるように支援している	病院の栄養科で用意した献立と材料を使い、 食事を作っている。出来ることは利用者にも お願いしている。職員も同じ食事を一緒に食 べるようになり、ケアをしながら食事に関する 共通の話題も増えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	食事量・水分量のチェックを行い摂取量の 把握に努めその方に応じた対応をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	声かけすればできる人、誘導や介助が必要 な人等職員は把握しており、毎食後その方 の力量に応じた支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンにより誘導や見守りを行いトイレ排泄の継続や自立に向けて支援している	排泄チェック表を使用している。排泄が自立している利用者(約半数)も排便は確認している。それぞれの居室トイレの利用ができるよう誘導や声かけを支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、野菜類、乳製品、水分摂取等は日常的に配慮して自然排便できるよう取り組んでいるが必要に応じて医師と相談し下剤での調整をしている方もいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	機械浴対応と一般浴対応とに分かれて入浴してもらっている。温泉施設の足浴には希望者をつれて出かけている	1階が機械浴、2階が一般浴で、1日置きに入浴できるようにしている。入浴を希望する利用者は連日でも利用でき、入れるという声かけもしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量や、夜間の就眠状態の観察を行いながら安眠につながる生活を支援している。昼食後の午睡が日課になっている人もいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	効能・副作用の説明書は個別に保管し全職員に分かるようにしている。処方変更があった時には申し送りを徹底し様子観察の強化や記録等に注意して対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	蚕の飼育・コンニャク作り・野菜作り等は毎年行っており、昔の経験や知恵を発揮できたり思い出を語ったりできる場面を作り楽しみながら行えるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	お天気の良い日には外気浴や散歩、希望に応じて足浴や買い物に出かけたりしている。行事でのお花見やぶどう狩り、外食等に出かけたり家族と一緒に墓参り等に出かける人もいる	外気浴や散歩の他に、近所の温泉の足浴や食べ物や趣味のものを買いに外出している。ぶどう刈りなどの行事や外食にも出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の力量に応じたお金の使い方や管理の仕方を家族と話し合いながら支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をかけたり、手紙を預かり家族とのやり取りができるようにその都度対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールから見える庭の一部は菜園になっている。そこからは野菜の生育を眺めたり季節の草花を楽しんだりできる。玄関やホールには季節の草花を飾り、畳敷きのスペースには掘こたつがあり季節を感じていただけるよう配慮している	ゆとりある共用空間のため圧迫感がない。ソファやこたつのある畳でもゆとり過ごせる。テラスでは季節の花が楽しめる。館内は気になる臭もなく清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の壁面に写真コーナーがあり折にふれ楽しめるようにしている。ソファを置き一人になれる場所も確保、畳敷きのスペースも有効活用されている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には家具等の持ち込みは可能である事は伝えている。自分で作った作品や絵を飾ったり思い出の写真や家族からのお花等を飾り思い思いに工夫されている	それぞれの居室にはトイレがある。レクリエーション等で作った作品や写真が飾られている。それぞれの好みの家具等を利用している。全体的にすっきりしている居室が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や不安の原因を探りながら状況に合わせて環境整備を行い、安全で出来る限り自立した生活が送れるよう工夫している		